

乳幼児の保育環境

—手づくり遊具・玩具の効果— (一考察)

Nurse Environmental of a Baby ; Child

—An Effect of a hand Make Toy ; Plaything— (1 Consideration ; a Study)

寺 島 明 子

Akiko TERESHIMA

I. 課題及び目的

保育施設とは、待井は「保育原理」の中で、保育園・幼稚園・乳児院・児童養護施設などであり、子ども達が専門的に保育される所である。この代表的な保育施設は、幼稚園と保育園である。¹⁾と提示している。

遊具・玩具のことを滑川は「オモチャ教育論」の中で、「子どもたちは、遊びを通して認識能力を発達させていく。その遊びに使われる遊具が、ひろく言ってオモチャである。そこには自然物もあり、手製のものもあり、商品となっているものもある。オモチャは、子どもにとって生活の必需品であり、成長・発達の道筋にとって、重要な意味をもつ児童文化財のひとつである。」²⁾と述べている。

さらに「一般に、子どもの遊び道具となることを目的にして人口的に作られたものをオモチャ(玩具)といっているが、ブランコ、シーソーのような大きな遊び道具は、「遊具」あるいは「運動遊具」として区別している。」³⁾さらに、オモチャは手に持って遊ぶ「おもちゃそび」を語源としているといわれるから、「手あそび」するほどの小物玩具の意味が主であったようである。⁴⁾と明らかにしている。

したがって、遊具と玩具とは、遊びに用いる遊具を意味し、『遊具』は子どもの遊び遊具全般を指す名称でありその意味で『玩具』は広義の遊具に含まれる。狭義には『遊具』は固定遊具や大型遊具などダイナミックな全身運動を伴う遊びを誘発する。また『玩具』は子どもが手軽に持ち運びできる遊具を指し、一般に『おもちゃ』といわれる。つまり、遊具と玩具は全く別のものでなく、広義では遊具の中に含まれており、一方「遊具・玩具」は「おもちゃ」と同義であると言えよう。

そこで、保育所の子ども達の遊びに用いるもので、固定的なもの・移動可能なもの、つまり、比較的大きな遊びものを『遊具』とし、子どもが気軽に持ち運びできるものを『玩具』と言う用語で使用する事とした。

手づくり遊具・玩具とは、正に手で作ったものであるが、滑川は、「オモチャ教育論」の中で、手づくりオモチャは親や祖父母が生活の中で、子どもに喜ばせようとして作ってあげたことが起源である。⁵⁾と述べている。

小関は「子どもの発達と遊び」の中で、市販させているおもちゃは多種で、売ることに視点が置かれており、商業主義やマスコミュニケーションの作り出した遊具・玩具は、創意工夫をせずすぐに操作しやすいように作られており、子どもの発達に役立つ働きはほとんどない。反

面、子どもの感覚を直接的に刺激する働きを持っているので、おもちゃに慣れ親しんだ子どもは、おもちゃを貯めることに関心が傾き、おもちゃ集めに夢中になる。⁶⁾と、既製玩具のことを批判している。

渋谷は「教育者・研究者のための遊び・おもちゃに関する研究集1」のなかで、現代の遊具・玩具は、産業と経済と新技術の発展によりプラスチック遊具・玩具が大量に子どもの環境に導入され、子どもが本来持っている遊びの欲求を果たせない状況に陥っているのではないだろうか。⁷⁾と提言している。このような既製遊具・玩具が時代の流れの中で、人間存在を維持し、人間が人間らしく生存して行くことができるのであろうか。

また、「現代は物質文明であり、この流れを変えることは不可能である。そしてこの物質文明の弊害は、人間の精神面と調和を求めることの重要性を無視した一つの結果ともいえる。そこで現代は、この精神的な要素を補う形で調和に至る考え方が必要になる。」⁸⁾と述べている。さらにこの考え方を現代の物質文明と積極的に調和を求めていくには、遊具・玩具の作り手の技術の関係において、「技術は人間性の豊かな精神活動を阻害するものであってはならず、人間性・人格の向上に寄与すべき必要がある。」⁹⁾と述べた。よって、精神と理論のためには行く過ぎた高度な技術は必要としない。つまり、大人の作り出した物を通して子どもの精神面と物質面を合わせて吸収し成長する上にも、この優先しない一歩プリミティブなもの作りの姿勢が子どもにとって必要である。¹⁰⁾と述べた。

つまり、子どもの保育環境の人的環境である保育者は、子どもを発達させるために上手に遊具・玩具を作るのではなく、心を込めて遊具・玩具を作ることが不可欠であり、その中で子どもを育てていく人間性や人格の向上に寄与することである。

したがって、子どもが育って行く保育環境の人的関係の関わりの一つとして手づくり遊具・玩具が、子どもにとって大切であると言えるであろう。

では、我々は、子ども達にどのような手づくり遊具・玩具を用いれば良いであろうか。

ケント・ガーランド・バート/カレクスタリンは「0歳からの手づくりおもちゃ」の中で、子どもの情感や意欲の育ち方、すなわちその子どもの固有の発達をしっかりとおさえたいうえで、両親と子どもが手づくりおもちゃで気持ちを伝えあうということ、また、両親の心がぎっしり詰まったそんなおもちゃで遊びあうなかで育つ、子どもの意欲や情緒や社会性の発達が何よりも大切である。¹¹⁾と述べている。

デューイは「学校と社会」のなかで、家庭生活の中で料理や裁縫が行われなくなったので、学校の科目のなかに子どもに身につけて欲しいためにこの科目を組み入れたのではない。子ども時代は本能的に自らが体を動かし、自分で創意工夫し作ることが好きであるから学校の科目のなかに、裁縫と料理を入れた。¹²⁾と論じている。

フレーベルは「フレーベルの生涯と思想」の中で、遊びのための教育遊具で、遊びを引き出し、展開させる媒体物が遊具である。それらは、敬虔なプロテスタントであるフレーベルにとって、神から恵み与えられた生命を促がし、引き出すもの（ガーベ）とされている。¹³⁾日本でも名づけられた恩物は、この意味を表す。それらは、乳児から幼児期の子どもの、それぞれの発達段階で生じるあそび衝動を、促がし引き出すように考案されている。

モンテッソーリは「モンテッソーリ教育における児童観」の中で、幼児が自発的に環境にかかわろうとする要求は、「敏感期」と呼ばれる発達段階と関係があることに注目した。子ども

たちは大人に依存するのではなく自分の力を発揮して生活すること、自由な環境と子ども中心の援助が生まれたのである。その人格形成を助けるのがモンテッソーリ法であり、その為の子どもの遊びでかかわるものをモンテッソーリ教具である。¹⁴⁾と述べている。

シュタイナーは、「精神科学の立場からみた子どもの教育」の中で、乳幼児期の子どもは側にいる大人の感情中核までも模倣し、それを自分の内面に刻印していく。¹⁵⁾と述べている。そのことは、大人の価値観・生き方そのものの内容・質が子どもに与える影響の重大さを指摘している。そこで子どもに関わる大人は自分の生き方を振り返り、真我に生きて行くよう目覚めるよう努力する生き方を選択して初めて、子どもにもものを通して健全にかかわれるのではないかと考える。

この意味において遊具・玩具を考えると、現在の子どもの対象とした遊具・玩具に既製品は不向きである。

近年、保育施設ではどのような遊具・玩具が設定されているのかについての研究が積み重ねられてきた。平井は、「幼児の教育全集 環境を見る目」1969年¹⁶⁾・高橋、田中は、「幼稚の発達と指導」1977年の研究から見出されてきたことは、子ども達にとって遊具・玩具は、大人との信頼関係がしっかりと結ばれた人間関係が基盤にあつて、初めて子ども達にとって意味のある、価値のある大切な学び遊具・玩具となる。¹⁷⁾と述べられていた。さらに、各年齢の好まれる遊びの種類、遊具の使い方や安全面・衛生面の研究であつた。¹⁸⁾

高橋は、「日本の幼児の成長・発達に関する総合調査」の中で、園庭遊具には第一位に鉄棒・砂場及び砂場道具の3種類、第二位はすべり台、第三位は縄とび、第四位にはブランコとタイヤであつた。¹⁹⁾と述べている。

守屋は、「保育学研究」の中で保育における3歳・4歳・5歳・6歳児の遊具の利用度・可逆性可塑性・発展率についての論文がある。そこでは年少ほど遊具の利用度が高く、各年齢において積み木が最もよく利用された遊具である。年齢とともに利用度の高くなる遊具は、ボール・縄・椅子で、年齢とともに利用度の低くなる遊具は、ブロック・空き箱・びん・乗り物遊具である。²⁰⁾と述べている。

また、遊具・玩具をどの程度どのように整備するのかは、保育所では「児童福祉施設最低基準」²¹⁾に記述されている。つまり、子ども達が育って行く保育環境の物的環境の1つとして遊具・玩具が、子ども達にとって必要であると言えよう。

したがって、本研究においては、保育者が保育所においてどのような種類の遊具・玩具を選択し提供しているのか、また、その物は既製品であるのか、手づくりであるのか、なぜこのような遊具・玩具が保育環境として構成されたのを明らかにする。さらに、乳幼児の置かれている保育環境を把握し、乳幼児の手づくり遊具・玩具の効果についても明らかにしたいと言う目的からである。

II. 研究の方法

1. 調査対象 保育所の園長と保育士
2. 調査期間 平成16年9月～11月
3. 調査場所 長野県の保育園35園
4. 調査者 1名

5. 手続き 調査者の分析及び面接法

Ⅲ. 結果及び考察

1. 結果

① 調査A

「遊具・玩具について調査」のアンケート調査（資料）を、保育所で園長または保育士のどちらか1名依頼して2004年9月～11月に実施した。配布数35、回答数35、回収率100%であった。

②調査B

（保育室0・1歳児の遊具・玩具）

遊具・玩具は全部で74種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては37種類で、手づくり遊具・玩具は37種類であった。既製遊具・玩具の種類は、ままごとセット19園、ぬいぐるみ14園、小さいすべり台10園、ブロック9園、ボール6園、車4園であった。

以下の遊具・玩具は、1種類の物である。（プラスチックの積み木・ふろしき・トランプ・落とすと、ひよこが出るおもちゃ・卵がコロコロまわりながら落ちる・家・ピアノ・ガラガラ・お手玉・振り玩具・角張ったところのない列車の大きなおもちゃ・音の出る動くおもちゃ・木製のおもちゃ・ハイハイをするサーキット・タンバリン・知育玩具・パズル・音が出る人形・サイコロ・木馬・ダンボールを押すとひらがなの絵の描かれた板があがる物）

（保育室2歳児の遊具・玩具）

遊具・玩具は全部で65種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては38種類で、手づくり遊具・玩具は27種類であった。既製遊具・玩具の種類は、ままごとセット21園、ぬいぐるみ18園、ブロック13園、積み木7園、粘土5園、すべり台3園、ぬいぐるみ2園であった。

以下の遊具・玩具は、1種類の物である。（ふろしき・ハンカチ・人形の服・かばん・絵本・クレヨン・音の出る遊具・布製の音のなる玩具・ボール・布ボール・フープ・柔らかいバスマット、パズル・木製のおもちゃ・積み木・知育玩具・車・おんぶ紐・お弁当箱・袋（手提げバック）・あいうえお積み木・スタンプ・おすし・やさい・エプロン・パズル・音の鳴る人形・食べ物遊具・人形・プラスチック製の積み木・すべり台・机と椅子の連なった台）

（保育室3歳児の遊具・玩具）

遊具・玩具は全部で50種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては25種類で、手づくり遊具・玩具は25種類であった。既製遊具・玩具の種類は、ままごとセット19園、ブロック16園、ぬいぐるみ10園、粘土6園、積み木4園であった。

以下の遊具・玩具は、1種類の物である。（本格的ままごとセット・ふろしき・プラスチックの車・柔らかい素材のパズル・電車の路線・絵本・布・ドミノ・広告・積み木・特大積み木・広告・なわとび・貝殻・型を組み合わせるブロック・パズル・キーボード・なべ・携帯電話のおもちゃ）

(保育室4歳児の遊具・玩具)

遊具・玩具は全部で60種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては35種類で、手づくり遊具・玩具は25種類であった。既製遊具・玩具の種類は、ままごとセット21園、ブロック12園、ぬいぐるみ5園、折り紙3園であった。

以下の遊具・玩具は、1種類の物である。(本格的ままごとセット・なべ・フライパン・平均台・トランプ・木製のテーブル・薄い毛糸・新聞紙、広告・スタンプ・画用紙・マジック・絵本・ボール・ドミノ・縄跳び・ビー玉・ぬりえ・電話・人形・かるた・カードゲーム・パズル・文字の積み木・やかん・食べ物)

(保育室5歳児の遊具・玩具)

遊具・玩具は全部で67種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては40種類で、手づくり遊具・玩具は27種類であった。既製遊具・玩具の種類は、ままごとセット15園、ブロック12園、ぬいぐるみ8園、粘土5園、ドミノ4園、ボール3園、であった。

以下の遊具・玩具は、1種類の物である。(トランプ・ドミノ・パズル・バット・廃材『トイレトペーパーの芯・ゼリーのカップ・牛乳パック・広告用紙』・カードゲーム・コマ・ビーズの紐通し・知育セット・ふろしき・木製パズル・粘土板・組み立て式の机・カルタ・お絵かきセット・携帯電話おもちゃ・ゲーム・松ぼっくり・折り紙・マジック・絵本・フラフープ・縄跳び・ポケモンにおもちゃ・かるた・かぼん・カードゲーム・オセロ・おはじき)

③ 調査C (園庭遊具・玩具)

遊具・玩具は全部で92種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては72種類で、手づくり遊具・玩具は20種類であった。既製遊具・玩具の種類は、すべり台26園、鉄棒25園、ブランコ23園、ジャングルジム22園、のぼり棒20園、渡り棒15園、砂場14園、スコップ11園、スクーター10園、三輪車9園、ままごとセット8園、大きなシャベル6園、シャベル5園、たこ橋・土山3園であった。

以下の遊具・玩具は、1種類の物である。(雲梯・タイヤ跳び箱・丘すべり台・木馬・鍋・器・フライパン・トラック・砂場・家・タイヤ・タイヤブランコ・お山すべり台・車・シャベルカー・トラック・ままごとセット・バケツ・お釜・竹馬・ふるい・お皿・お玉・じょうろ・一輪車・引き車・土山・シーソー・トンネル・砂場の道具・サッカーの道具・車のソリ・型抜き・太鼓橋・回る乗り物・ボールー・プラスチックの家・アスレチック・大型遊具・竹の渡り棒・ぶら下がりロープ・プール・木馬・ザル・トンネル・さら・カップ・椅子・二輪車・縄跳び・ポックリ・ペットボトル・机・平均台)

④ 調査D (遊戯室遊具・玩具)

遊具・玩具は全部で55種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては48種類で、手づくり玩具は7種類であった。既製遊具・玩具の種類は、ボール17園、積み木13園、フラフープ10園、跳び箱8園、すべり台7園、マット6園、平均台5園、大型ブロック5園であった。

以下の遊具・玩具は、1種類の物である。(板・家・L字ブロック・広告・ハサミ・トランポリン・鉄棒・ソフト積み木・のぼり棒・ボーリングのピン・平均台・はしご・プラスチック

のトンネル・おもちゃ・登り棒・車・ままごと) セット・縄跳び・ブロック・はしご・大きなぬいぐるみ・大きめな柔らかいブロック・ピアノ・玉入れの玉・三輪車・芋虫とんねる・ネット橋・ウレタン積み木・クライミング・スクーター・バスケットゴール・ブロック・ふろしき・ぬいぐるみ・布製の積み木)

⑤ 調査E (コーナー遊具・玩具)

遊具・玩具は全部で13種類あり、その内訳は既製遊具・玩具においては12種類で、手づくり玩具は1種類であった。既製遊具・玩具の種類は、ままごとセット2園、ままごとセット、人形、野菜類、おけ、ボール、ブロック大・小、ぬいぐるみ、紙芝居コーナー、絵本がたくさんある小さな図書館であった。

⑥ 調査F (子どもの良く遊ぶ遊具・玩具)

・ 3歳児 (16園)

1番は、①ままごとセット8園 ②広告で剣作り6園 ③絵本・ブランコ・砂場・ブロック2園

2番は、①ままごとセット5園 ②砂場3園 ③積み木2園

3番は、①すべり台4園 ②粘土3園 ③砂場2園

4番は、①ブランコ4園 ②ままごとセット3園

③三輪車・広告・大きなブロック・ジャングルジム・絵本・2園

5番は、①砂場遊び・すべり台3園 ②折り紙・ままごとセット2園

であり、主にままごとセット・砂場・粘土の道具を設定していた。

・ 4歳児 (16園)

1番は、①ままごとセット5園 ②ブロック3園 ③スクーター・剣遊び2園

2番は、①ままごとセット5園 ②広告・ブロック3園

3番は、①ままごとセット5園 ②ブロック4園

4番は、①すべり台・ままごとセット3園

5番は、①ブロック・鉄棒・折り紙2園

であり、ままごとセット・ブロックの遊具・玩具を使用していた。

・ 5歳児 (16園)

1番は、①ブロック4園 ②ままごとセット・砂場・ドッチボール2園

2番は、①ままごとセット3園 ②ブロック・ドミノ2園

3番は、①スクーター4園 ②ブロック・ままごとセット2園

4番は、①ままごとセット・すべり台2園

5番は、①鉄棒3園 ②紙・広告を使った遊び(紙飛行機・剣・ぬりえ・砂場2園)であり、ままごとセット・ブロック遊具・玩具を使用していた。

⑦ 調査G (手作り遊具・玩具)

・ 0歳児・1歳児

手づくり遊具・玩具の種類は、牛乳パックの椅子6園、エプロン2園で、各園の遊具・玩具の種類は異なるが後35種類あった。

その内訳は、積み木の形を合わせ入れる箱、箱に新聞を入れるおもちゃ、手づくりのマスコット、机、椅子、ぬいぐるみの服、ダンボールの家、スーパーボール、ペットボトルのガラガラ（マラカス）、牛乳パックを布でくるんだ積み木、丸く輪にしたホース、すずの入ったタオールの丸いぬいぐるみ、パズル、リック、牛乳パックで板を作りころがす遊具ハップウスチロールのボール、布でつくられた野菜、布製サイコロ、ふろしきのスカート、パネルシアター、ぬいぐるみ（女ことくま）、パペット、どんぐりのガラガラ、布製絵本、紙コップの馬、粉ミルクの缶で貯金箱、アンパンマンのお面、消防車、お城、布で作ったおもちゃ、布でできた積み木、踏み台、しまじろうの人形であった。

・2歳児

手づくり遊具・遊具の種類は、ぬいぐるみ2園、各園の遊具・玩具の種類は異なるが後26種類あった。

その内訳は着せ替え人形、人形の服、マスコット、ダンボールで作られた家、軍手で人を作った物、ペットボトルに色水、布製サイコロ、背負い紐、ふろしきのスカート、パネルシアター、ソファ、エプロン、パズル、ダンボールの家、携帯電話、お面、帽子、ダンボールのついで、お面（きのこ）、布製シート、牛乳パック、地図、牛乳パック、新幹線、布の絵本、ボタンつきの布の電車であった。

・3歳児

手づくり遊具・遊具の種類は、牛乳パック3園、ぬいぐるみ2園、各園遊具・玩具の種類は異なるが後23種類あった。

その内訳は、料理のマスコット、いす、机、折り紙（包装紙）、缶ぽっくり、福笑い、ダンボールの車、家、牛乳パックや板でつくった遊具どんぐりをころがす、紙粘土で作ったおままごとの物（魚・目玉焼き・野菜など）、エプロン、おんぶ紐、ダンボールの仕切り、おんぶ紐（ぬいぐるみをおんぶする紐）、エプロンシアター、ペットボトルを繋げてどんぐりを入れるところころ転がる物、スポンジ（パンにみたてる）、毛糸（ラーメンに見立てる）、ダンボール製コンロ、色で作った立体的な野菜、広告で剣作りであった。

・4歳児

手づくり遊具・遊具の種類は、牛乳パックの椅子2園、各園の遊具・玩具の種類は異なるが後24種類であった。

その内訳は、牛乳パックの机、うさぎと人参の陣地取りの道具、折り紙（包装紙）、缶ぽっくり、紙粘土で作ったおままごとの物（魚・目玉焼き・野菜など）、お人形、お手玉、お面、ぬいぐるみ、エプロン、おんぶ紐、マサラ（ヨーグルトの容器）、お手玉、大きい発泡スチロールのブロック、ダンボールの仕切り、ぬいぐるみの布団、ぬいぐるみをおんぶする布、ままごと用椅子、あやとり、スポンジ、毛糸、牛乳パックのついで、（ままごと用）、牛乳パックの連なったものであった。

・ 5歳児

手づくり遊具の種類は、ぬいぐるみ2園、各園の遊具・玩具の種類は異なるが後26種類あった。その内訳は、あやとり、剣玉、長方形の木の板、縄跳び布、コルク、折り紙、缶ぽっくり、ペットボトルに色水、紙粘土で作ったおままごとの物（魚・玉子焼き・野菜）、お散歩バック、ダンボールの椅子・机、ままごとの人形（ポックリ）、エプロン、おんぶ紐、牛乳パックの椅子・机、布で作ったボール、ぬいぐるみの布団、あやとり、色パズル、色カードであった。

・ 園庭

手づくり遊具・玩具の種類は、ブランコ、タイヤ跳び、竹馬、足ポックリ、タイヤのターザンロープ、プリンのカップ、ハンモック、木のブランコ、ターザン、お化け屋敷、落ち葉のたまるスペース、魚釣り、丸太、タイヤのブランコ、木製の作った階段、フラフープ、水を入れる筒、トンネル、池であった。

・ 遊戯室

手づくり遊具・玩具の種類は、鈴・タンバリンを天井からぶら下げてジャンプして叩いて遊ぶ、エプロン、ダンボールで作られた絵の描いてある壁、布で作ったやわらかい積み木、大きいダンボールの家、包装紙を切った折り紙であった。

・ コーナー

手づくり遊具・玩具の種類は、牛乳パックの椅子が1園であった。

⑧ 調査H（保育者の遊具・玩具の環境構成の目的）

・ 0歳児・1歳児

- 1) 一人遊びが主などで、ぬいぐるみなど一人ひとりへ行き渡る位多くの量が用意してあった。
- 2) 読みたい絵本を自分でとって、自分一人でみたり、「読んで」と言って保育者に渡して読んでもらう。
- 3) 保育士との信頼関係を形成する時期なので、子どもと一緒に遊ぶことが必要である。
- 4) クラスの中に食べ物玩具を置き、除々集団遊びが出来るようにしている。
- 5) 持つ、握ると言うのがしっかり出来るようにそのような玩具を用意しておく。

・ 2歳児

- 1) ダンボールで作られた家を通して、友達との関わりやごっこ遊びを用意する。
- 2) 皆が使用できる物、発達段階に合う様な者を置き、楽しむことをねらいとする。
- 3) 年齢に合った三輪車を用意しておく。
- 4) 保育士が事前にテーブルの上に玩具を置いておく。
- 5) 保育士との信頼関係の中で育って行くので、積極的に関わり遊具・玩具の遊び方を伝えていく。
- 6) ダンボールで作られた家を通して、友達との関わり、ごっこ遊びを増やす。

・ 3 歳児

- 1) 子どもの想像力などを育てて行くために準備している。
- 2) おままごとセットは子どもの創造する力を養えるから整えておく。
- 3) どんぐり等身近な物を使ってイメージがふくらむ事も着たいている。
- 4) 12月の発表会にむけて三匹の子豚を遊びの中で導入していきたく、子ども様のエプロンシアターやキーボードの鍵盤を押すと、三匹の子豚の曲が流れるようにして遊ぶように準備している。
- 5) 自分で作ることができるので、広告紙を用意しておく。
- 6) おままごとセットは、自由遊びだけでなく中心活動でも使い、ごっこ遊び多くするようにしている。
- 7) おままごとをする道具で、家での活動の模倣をしたり、友達を作るために使うことが多い。

・ 4 歳児

- 1) 子どもたちだけで自由に遊ばせるようにするため遊具・玩具を用意しておく。
- 2) ままごとをしている時に、入れてと言ってきた子どもに対して「だめ」といつってしまったが、自分が「だめ」と言われてどのように感じるのか、知って欲しい。
- 3) 子どもたちが様々な遊具を用いて遊び、発達できるようにする。
- 4) 具を媒介として、友だちとのかかわりをもつことができる。
- 5) 園に設置されている遊具で遊ぶ時期などで、発達にあった遊具・玩具を用意しておく。
- 6) ブロック・おままごとにしても、飛行機・ピストル等の想像力を働かせるため。

・ 5 歳児

- 1) カードゲームはルールをふくれてルールの仕組みを知ってもらうため環境として置いてある。
- 2) ルールに従い遊具・玩具を使い遊んでいくので、そのような遊具・玩具を用意しておくこと。
- 3) 友達と関わる機械を増すために遊具・玩具を設定する。
- 4) 子どもの創造力、想像力を育てる。
- 5) ブロックは一人で組み立てたり、友だちと協力して作ったり組み合わせ方を工夫して教えあうなど、友だちと関わりながら遊びが発展していき、友だちとの関わりができる遊具であるため置いてある。
- 6) 作った物を通して、友達との関係を遊んで膨らませたりする。

2. 考察

本研究においては、保育者が保育所においてどのような種類の遊具・玩具保育を選択し提供しているのか、また、その物は既製品であるのか、手づくりであるのか、なぜこのような遊具・玩具が保育環境として構成されたのかを明らかにした。

保育所には児童福祉施設最低基準第5章保育所（設備の基準）「四 乳児室又はほふく室には、保育に必要な用具を整えること。七保育室は又は遊戯室には、保育に必要な用具を整える

こと²²⁾と規定されている。保育所保育指針の1. 保育の原理(3) 保育の環境「保育所の設備、室外遊戯場は、子どもの活動が豊かに展開されるためのふさわしい広さを持ち、遊具・用具その他の素材などを整え、それが十分に活用されるように配慮する。」²³⁾と記載されている。この児童福祉施設最低基準に従い、保育室の既製遊具・玩具は0・1歳児37個、2歳児38個、3歳児25個、4歳児35個、5歳児40個で、園庭の既製遊具・玩具は、73個で、遊戯室の遊具・玩具は、48個で、コーナーの遊具・玩具は、12個であった。保育室の手づくり遊具・玩具は0・1歳児37個で、2歳児27個、3歳児25個、4歳児25個、5歳児27個で、園庭の遊具・玩具は、19個で、遊戯室の遊具・玩具は、7個で、コーナーの遊具・玩具は、1個であった。

つまり、既製遊具・玩具の合計は308個で、手作り遊具・玩具の合計は168個であった。手作り遊具・玩具のことを滑川は、「オモチャ教育論」(1969年)の中で、手づくりオモチャは親や祖父母が生活の中で、子どもに喜ばれようとして作ってあげたことが起源である²⁴⁾と述べているが、この調査からも同じようなことを考察することが出来た。これは保育士が、子どもたちの発達にあつた遊具・玩具を既製と手づくりを織り交ぜながら子どもたちに環境構成していることが分かった。さらに、保育士が心を込めて子どもたちに作って上げたことも調査より分かったことである。しかし、筆者が手づくり遊具・玩具の定義した「子どもの見ている所で自然素材を素に製作する」ということは、達成できていなかったと言える。

0歳児・1歳児・2歳児は保育士が乳児に合った遊具・玩具を環境設定し、保育士が関わり乳児と一緒に遊んでいることが分かった。それは、乳児は自らが遊具・玩具を準備することが出来ない発達段階だからである。

乳幼児の良く遊ぶ遊具・玩具においては、3・4・5歳児共に一番多く使用される遊具・玩具はままごとセットで、次にブロックと言う何れも既製玩具であった。また、3・4・5歳児共に砂場で関わり遊ぶことが多かった。このことから分かるように幼児は、自分で作り出し形を自由に換えていける可塑性に富んだ素材の砂の魅力は子どもの心を掴んで離さないと言えるであろう。次にままごとセットにおいては、家庭生活での模倣であり、その模倣期の影響の強い3・4・5歳児に多かった。5歳児においては、ままごとの家庭遊びと、幼児自らが主体的に関わり遊んでいく、ブロック、ドッチボール、ドミノなど友だちと共に協力して作り、遊ぶことを主にする遊具・玩具を使用する遊びを好んでいることが分かった。

幼児は砂場、ままごとごっこ、ブロックなどの遊びを好みその為の道具つまり、遊具・玩具を使用し、自分が主体的に取り組み、創意工夫が出来る遊びを好んでいることが分かった。さらに、幼児が遊ぶのには砂場では砂場の道具が必要であり、それを使い楽しく遊ぶことにより、その道具の使い方を体得し、体の巧緻性や器用さを身につけ、その結果心身共に発達するのである。遊びが広がり発展し、友だちと関わり遊を通してすることによりその過程の中で発達していくことが分かった。

したがって、乳幼児が遊ぶのには遊具・玩具が必要であり、その過程の中で発達して行くことである。

また、乳幼児は年齢が高くなるにつれて遊具・玩具は、あまり用いなくとも遊べることも分かった。

一方、保育室の手づくり遊具・玩具は0・1歳児37個で、既製遊具・玩具と同じ数であった。2歳児27個、3歳児25個、4歳児25個、5歳児27個で、園庭の遊具・玩具は、19個で、遊戯室

の遊具・玩具は、7個で、コーナーの遊具・玩具は、1個であった。このように多くの手づくり遊具・玩具を乳幼児に提供しており、ままごとセットの中では手づくりの野菜類のジャガイモ・人参・たまねぎ等は、使用し遊ぶ姿が見られた。0・1・2歳児においては、保育士が乳幼児の発達にあった遊具・玩具を手づくりし、乳幼児が自由に使えるよう環境設定したり、保育士と一緒に遊んだりしていた。3歳児以降の幼児にとって大きな遊具に関しては、既製遊具を環境構成してあるのでそれを使用していることが分かった。一方手づくり遊具・玩具は、ままごと遊びの時には牛乳パックの椅子・机、ご飯の具のおにぎり、ラーメンの具の毛糸などは使用して遊んでいた。冠・剣を紙で作ったもの、ふろしきのスカートもごっこ遊びに使用していた。

そのことを、保育所保育指針の第6章 2歳児の保育の内、4 内容(11)「保育士の仲立ちによって、共同の遊具などを使って遊ぶ。」²⁵⁾と記載されている。未満児は保育士の仲立ちの援助で乳児は、その場に応じた遊びをすることができ、より発達していくことができると言えるであろう。3歳以上児は、自分で遊びを作っていくことが出来る発達段階なので幼児の主体性を大切に、保育士は幼児を見取り環境設定をしていくことである。

このことを保育所保育指針の3歳児の保育の内容4 内容「人間関係」(3)「遊具や用具などを貸したり借りたり、順番を待ったり交代したりする。」、4歳児の保育の内容3 ねらい(6)身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。」、5歳児の保育の内容4 内容「人間関係」「共同の遊具や用具を譲り合って使う。」²⁶⁾と記載させている。

遊具・玩具の環境構成の目的においては、幼児が遊具・玩具を用いることによって、遊びを深め創造力などの様々な能力を発達させるために環境構成をしていると言えよう。その環境構成していくのは、保育士の姿勢と関わりの視点であると言える。つまり、乳幼児を保育していくということは、保育士の適切な関わりが不可欠であると言えよう。

滑川は「オモチャ教育論」(1969年)の中で、「オモチャをつくるたのしみを味わうことは、いまではぜいたくなことになってしまった。」²⁷⁾と述べている。しかし、保育所においては保育士が、乳幼児のために手づくりしていることが分かった。

IV. まとめと今後の課題

本研究については、保育所35園を対象に調査したものである。

保育所の保育士は乳幼児に対して、保育士自らが製作し環境構成している保育者もいることが分かった。それは、乳幼児の発達に合わせて手づくりすることができることを第1. に上げている。つまり、乳幼児が歩きはじめの発達段階の既製遊具の「カタカタ」は、「乳幼児の体の機能に合わず、乳幼児の足の動きよりも速く前進してしまい転びやすい。」と言うのである。そこで、それらを解決するには、「乳幼児自らが動かさないと動かすことのない牛乳パックに砂を入れた椅子を、作り乳幼児に与えることである。そして、乳幼児が発達し足の動きがしっかりしてきた発達段階に到達してきたとき既製の「カタカタ」を与えている。」と述べている。このことは正に、手づくり遊具・玩具の良さであろう。

また、保育士自身が「手づくりし、乳幼児に与えたい。」と言う保育士もいた。それは、保育士自身が手作りし乳幼児に環境構成することにより「乳幼児の喜ぶ顔を見たい、どのように遊んでくるのかを見たい」と言う乳幼児からの感謝する思いを得たいという保育士側からの思

い入れもあるであろう。しかし、乳幼児を育てていく教育的意味は、ここからスタートし乳幼児と保育士との信頼関係を築くための1つの手段ではないだろうか。このような保育士もいるが、全く手づくりしていない保育士もいる。しかし、手づくりしていない保育士が、乳幼児との信頼関係が構築していないとは言えない。ただいえることは、保育士と乳幼児が良い信頼関係を築き、乳幼児が遊びの中で楽しく遊具・玩具と関わり楽しく遊ぶことの1つの手段として、手づくり遊具・玩具が環境構成されれば乳幼児は、一層発達でき健やかに育って行くのではないかと考えるのである。

今後はさらに手づくり遊具・玩具の効果についてのメリット・デメリットを明確にし、乳幼児の手づくり遊具・玩具の効果をもさらに研究して行きたい。

注)

- 1) 待井和江『保育原理』（ミネルヴァ書房, 1998年） p19
- 2) 滑川道夫『オモチャ教育論』（東京堂出版, 1969年） p 1
- 3) 同書, p 11~12
- 4) 同書, p 12~13
- 5) 同書, p 12~13
- 6) 小関康之『子どもの発達と遊び』（中央法規出版, 1979年） p 36~37
- 7) 渋谷寿『教育者・研究者のための遊び・おもちゃに関する研究集1』（財団法人佐藤玩具文化財団, 1993年） p13~20
- 8) 同書, p16
- 9) 同書, p13~20
- 10) 同書, p13~20
- 11) ケント・ガーランド・バート／カレクスタリン『0歳からの手づくりおもちゃ』（株式会社同朋舎出版, 1990年） p 1~5
- 12) デューイ『学校と社会』 宮原誠一訳 （岩波文庫, 2002年） p17~40
- 13) 荘司雅子『フレーベルの生涯と思想』（玉川大学出版部, 1975年）
- 14) 市丸成人『モンテッソーリ教育における児童観』（学研, 1978年） p 31~44
- 15) ルドルフ・シュタイナー『精神科学の立場からみた子どもの教育』（人智学出版社, 1980年）
- 16) 平井信義『幼児の教育全集 環境を見る目』（教育出版, 1969年） 176~188
- 17) 高橋省己・田中敏隆『幼児の発達と指導』（ひかりのくに株式会社, 1977年） p149~150
- 18) 同書, p149
- 19) 村山貞雄編『日本の幼児の成長・発達に関する総合調査』（サンマーク出版） 1987年 p 607~608
- 20) 守屋光雄『保育学研究』（昭和堂, 1979年） p 154~157
- 21) 厚生省『児童福祉施設最低基準』（萌文書林, 2000年）
- 22) 同書, p149
- 23) 厚生省児童局 『保育所保育指針』（社会福祉法人日本保育協会, 2000年）
- 24) 滑川道夫『オモチャ教育論』（東京堂出版, 1969年） p11~13
- 25) 厚生省児童局 『保育所保育指針』（社会福祉法人日本保育協会, 2000年）
- 26) 同書
- 27) 滑川道夫『オモチャ教育論』（東京堂出版, 1969年） p11~13

資料

アンケート調査用紙

遊具・玩具についての調査

(担任の先生へのお願い)

この調査は担任の先生にご記入いただくものです。先生が担任しておられるクラスについて、下記のことをおたずねします。ご協力をお願いいたします。

A. 該当クラスに○をしてください。

クラスの年齢 (3歳児 ・ 4歳児 ・ 5歳児)

B. 保育室内の遊具・玩具をお書き下さい (いくつでも結構です)。

1	6	11
2	7	12
3	8	13
4	9	14
5	10	15

C. 園庭の遊具・玩具をお書き下さい (いくつでも結構です)。

1	6	11
2	7	12
3	8	13
4	9	14
5	10	15

D. 遊戯室の遊具・玩具をお書き下さい (いくつでも結構です)。

1	6	11
2	7	12
3	8	13
4	9	14
5	10	15

E. コーナーの遊具・玩具をお書き下さい（いくつでも結構です）。

1	6	11
2	7	12
3	8	13
5	10	15

F. 子どもの良く遊ぶ遊具・玩具を5種類お書き下さい。

1	2	3
4	5	

G. 手づくり遊具・玩具をお書き下さい（いくつでも結構です）。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10		

H. 遊具・玩具は、どのようなお考えで環境構成されているのかお書き下さい。

お忙しいところをご協力くださりましてありがとうございました。